



特集

## 反電磁波講座

プラス

今年4月1日からの電力小売完全自由化にもなつて新たにクローズアップされている問題がある。

新電力に切り替える際のスマートメーター設置問題だ。

さすがにむやみなオール電化、IH化は、敬遠されるようになってきたが、携帯電話やスマートフォン契約数は人口数を上回り、さらには家電のスマート化が進みつつある。

いわば電磁波の「雲」の下にいる私たちの住環境にこれ以上電磁波を持ち込んでいいのだろうか。

3月14日の国会(参議院予算委員会)でも、小林正夫議員(東京電力出身・現民進党)の質問に対し、スマートメーターでなくても新電力への切り替えは可能と経産省電力ガス事業部長は答弁。

❖実際にスマートメーターを拒否した事例も現れ始めている。  
❖住宅を新築する際、設計するとき、考えてみませんか、電磁波のこと。



日本の住宅の屋内配線は

なんと90メートル!

携帯、スマートフォン、家電製品と、電磁波に囲まれた現代人の暮らし。



これが新電力への切り替えによってやってきたスマートメーター。

交渉により通信装置を取り外させた事例もある。

アナログメーターからスマートメーターへの取替えは「スイッチング」新メーターへの取替えといわれ、知らないうちにスマートメーターに変わっていたという人も多い。

住宅の新築時には気をつけよう!

撮影(3枚とも):編集部

❖……神奈川県鎌倉市のAさんは、広告でミツウロコグループエネルギーを知り、同社に契約を申し込んだ。その直後にスマートメーターの電磁波やプラグイン問題が気になり、現在の電力会社に「スマートメーターへの切り替えを拒否したい」旨を電話。「個別対応はできない」とのことだったが、検討を要望。2日後の6月3日に既存電力会社の「パワーグリッドスマートメーター工事センタースイッチング工事調整グループ」担当者から電話があり、交渉の結果、「今回の契約変更にもなうスマートメーターへの切り替えはしない方向で担当者が社内でも動く」と、今回は切り替えをしないことで決着した。今後はそのつど検討することだが、特に電磁波過敏症でなくても、一般の市民が「スイッチング」と呼ばれるスマートメーターへの交換を断った事例である。